



高温登熟性・耐倒伏性に優れる直播栽培向きの多収良食味水稻新品種「しふくのみり」

水田作研究領域
津田 直人(つだ なおと)

家庭用炊飯米の消費量は減少する一方で、中食や外食用途の消費量は増加傾向にあります。中食や外食用途向けの新品種には、一定水準の食味・品質を有し収量性が向上していることに加え、栽培の省力・生産コスト化に対応できるよう直播栽培に適する品種が求められます。そこで、農研機構は、近年問題となっている登熟期間中の高温による玄米品質の低下を抑制でき、耐倒伏性に優れ、多収で良食味の特性を有する直播栽培向きの水稻新品種「しふくのみり」を育成しました。

特徴

「しふくのみり」は、出穂期や成熟期が「ひとめぼれ」とほぼ同じで、稈長が「ひとめぼれ」よりも約20cm短く、耐倒伏性がかなり強いいため、多肥栽培や直播栽培においても倒伏が少ない特徴があります(表、写真、図)。また、精玄米重は標肥移植栽培で「ひとめぼれ」並ですが、多肥栽培や直播栽培では「ひとめぼれ」よりも多収です(図)。いもち病抵抗性は「ひとめぼれ」よ

品種名	しふくのみり	ひとめぼれ
出穂期(月・日)	8.04	8.05
成熟期(月・日)	9.17	9.16
稈長(cm)	66.0	84.0
穂長(cm)	19.0	19.1
穂数(本/m ²)	454	542
倒伏程度	0.0	2.5
耐倒伏性	かなり強	やや弱
いもち病抵抗性	葉いもち 穂いもち	強 中
高温登熟性	やや強	中
耐冷性	中	強
穂発芽性	やや難	難
縞葉枯病抵抗性	抵抗性	罹病性
精玄米重(kg/a)	67.6	67.3
精玄米重標準比(%)	100	100
玄米千粒重(g)	23.9	23.2
玄米外観品質	上中	上中
炊飯米食味	上中	上中

▲表/「しふくのみり」の栽培特性(2015年~2018年の平均・標肥移植栽培)

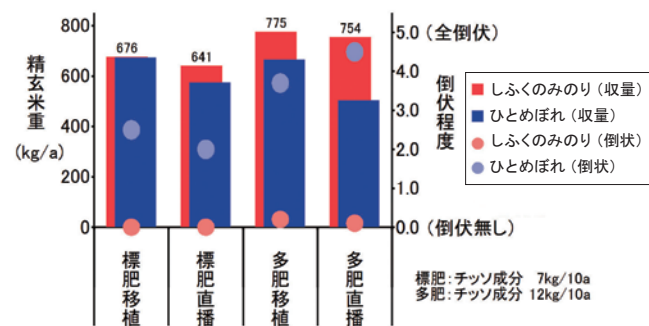
りも強く、葉いもち抵抗性と穂いもち抵抗性はいずれも“強”です。「しふくのみり」は「ひとめぼれ」よりも高温登熟性が強く、登熟期間中の高温によって起こる玄米の外観品質の低下を「ひとめぼれ」よりも抑えることができます(表)。また、薬剤防除が難しい縞葉枯病に対して抵抗性をもっており、縞葉枯病の発生が問題となる地域でも作付が可能です。玄米外観品質と炊飯米の食味は「ひとめぼれ」と同等です(表)。

栽培上の留意点・注意点

栽培適地は東北中部以南で、「ひとめぼれ」の栽培地域を目安として導入が可能です。なお、耐冷性は「ひとめぼれ」よりも弱いいため、冷害の発生しやすい地域での栽培は避けてください。



▲写真/「しふくのみり」の標肥直播栽培における草姿(2018年)
左:ひとめぼれ、中:しふくのみり、右:萌えみのり



▲図/「しふくのみり」と「ひとめぼれ」の収量および倒伏程度(2015年~2018年の平均)